

別表第1（第5条関係）

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	文化財管理費				
担 当 課 係 名	文化財 課	文化財 係	作成者	佐藤 人志	
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち			総合計画の ページ
	基本計画	芸術文化活動の振興と文化財の保護			
	主要施策	文化財の保護と後継者の育成			100
予 算 費 目	一般 会計	10 款 教育費	5 項 社会教育費	4 目 文化財保護費	
事 業 期 間	平成 年度 ～ 平成 年度		新規／継続の区分		継続
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等	文化財保護法				
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☐ 直 営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市民、国民のため、文化財を
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	「市指定文化財の保護、保存」、「武家屋敷の保護、保存」、「埋蔵文化財の調査」、「特別天然記念物カモシカの保護」等、文化財全般に係る保護、保存、整備を行う。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	文化財保護整備、カモシカ滅失業務、武家屋敷整備・雪降ろし等作業（作業員）を実施する。武家屋敷等に設置の防災設備の保守点検業務委託を実施する。施設、設備の工事または修繕を実施する。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	指定文化財数	目標	件	184	184	189	
			実績	件	184	184	189	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
	成果指標	修理、修繕、整備数	目標	件	13	14	12	
			実績	件	13	14	12	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				4,873	5,666	4,173	
	人 件 費 (B)		—		3,927	4,036	3,963	
	職 員 数		—		0.50	0.50	0.50	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				8,800	9,702	8,136	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				8,800	9,702	8,136
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		47,826	52,728	43,048	
	市民1人当たりのコスト(円)		—		276	309	262	

【事務事業の今までの成果】

文化財全般の保護、保存が図られている。特に経年劣化、腐朽の進む武家屋敷の環境を整備し、毎年の公開・活用に寄与している。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	関連の他事業（重伝建・重文等）は補助事業で実施しているが、本事業は単独の事業である。
事業に対する市民の意見 （事業に対する期待、要望、苦情等）	毎年、整備された施設（武家屋敷等）により、市民及び多くの観光客に公開と活用を提供している。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
A	A 現状のまま継続（実施）	毎年、同じ状態に保たれていること。すなわち、たゆまぬ保存整備を実施しているからであり、これからも継続していかなければならない。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	市固有の貴重な文化財を保護していくことは本市にとって極めて重要であり、今後も計画的に事業を継続していくべきと考えます。

一次評価診断図

